

〈特別講演者〉

中川久定(なかがわ ひさやす)

1931年生まれ。京都大学卒。京都大学文学部教授。日本18世紀学会幹事長。専攻はフランス文学。著書は『自伝の文学』『ルソーとスタンダール』『ディドロの「セネカ論」』『甦るルソー—深層の読解』。

ジャック・プルースト(Jacques PROUST)

モンペリエ第3大学教授。著書は『ディドロと「百科全書」』『百科全書』(平岡昇・市川慎一訳、岩波書店、1979年)『オブジェとテクスト』。

〈パネリスト〉

(姓のアルファベット順)

ドニーズ・ブライミ(Denise BRAHIMI)

パリ第7大学助教授。著書は『18世紀のバルバリア旅行記』『18世紀後半の世界周航記』(広田昌義訳『思想』1982年12月号)『ケンペルの日本誌』。

アヌ=マリ・シュイエ(Anne-Marie CHOUILLET)

国立フランス語研究所教授。本年夏にパリ-ランス-ラングルで開催された国際シンポジウム『ディドロ』の事務責任者。著書は『ディドロ書誌』。その他ディドロの諸テクストの校訂・注解。

ジャック・シュイエ(Jacques CHOUILLET)

パリ第3大学教授。本年夏にパリ-ランス-ラングルで開催された国際シンポジウム『ディドロ』の組織責任者。元パリ第3大学長。著書は『ディドロ美学の形成』『ディドロ』『エネルギーの詩人ディドロ』。

ロラン・デスネ(Roland DESNE)

ランス大学教授。フランス18世紀学会副幹事長。著書は『フランスの唯物論者——1750~1800年』『メリエ全集』(編集)、『ラモーの甥』(校訂版)。

ピエール・ドゥヴォー(Pierre DEVAUX)

京都大学外人教師。フランス文学、古典ギリシア文学専攻。

ベアトリス・ディディエ(Beatrice DIDIER)

パリ第8大学教授。著書は『サド』『日記文学』『自伝作家スタンダール』。

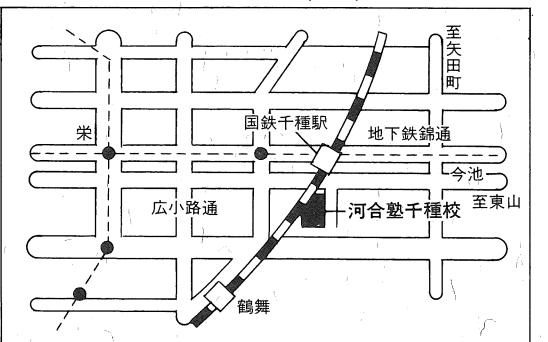
シャン・エラール(Jean EHRARD)

クレルモン第2大学教授。リオム市長。フランス18世紀学会会長。著書は『18世紀前半のフランスにおける自然の観念』『美術批評家モンテスキュー』『モンテスキューの政治学』。

会場案内図

(特別講演会場)

河合塾千種校 ☎052(733)7581



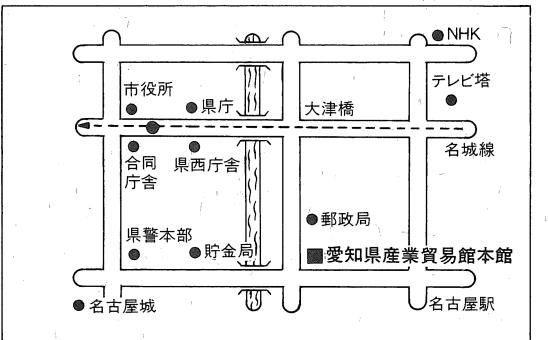
■交通案内

国鉄 千種駅下車
市バス 千種駅前下車
地下鉄 名古屋駅より 8分 千種駅下車

(シンポジウム会場)

愛知県産業貿易館本館(国際会議場)

☎052(231)6351



■交通案内

市バス ⑧⑯⑭系統 外堀町通本町下車
地下鉄 名城線市役所下車 徒歩10分

河合文化教育研究所

河合塾千種校内 TEL 052-733-7581

〒464 愛知県名古屋市千種区今池2-1-10

東京事務所

[河合塾駒場校内 TEL 03-465-3581]
[〒151 東京都渋谷区上原3-28-18]

シンポジウム

青年の現在<パリ-名古屋>



主催 河合文化教育研究所
後援 フランス大使館

現代社会の急激な変化によって生じた世界観・価値観の多極化は、われわれの生活のあらゆる場面において、伝統的な考え方や感性の問い直しを迫っています。伝統的な世界観と今日的な世界観との相剋が集約的に表現されている〈青年〉の問題をどのように捉え、いかに対応していくかは今日の社会を理解し、るべき未来社会を構想するための大きな鍵となるものです。

前近代社会では、日本の〈元服〉にみられるように成長の過程に一旦節目を入れることによって、子どもから大人への移行にひとつの区切りをつけてきました。しかし、この節目を失った今日の〈青年〉をめぐる問題は、現代の産業社会に特有の矛盾と歪みをかかえこむことになりました。

このたび河合文化教育研究所では、設立記念行事として11月19~23日に京都において開催される国際シンポジウム「ディドロ、および18世紀のヨーロッパと日本」を後援いたしますが、これを機会に国際シンポジウムに出席される第一級のフランス人学者多数を名古屋に迎え、特別講演とシンポジウムを開催いたします。

特別講演では、近代社会の母胎である18世紀文明の全貌をディドロを中心に描き出し、さらにシンポジウムでは、18世紀フランスにおける青年像と教育の実態の解明を試みます。同時に、1960年代後半におけるパリ5月革命に端を発した世界的規模での学生反乱に始まる今日的〈青年〉の問題を、現代フランス社会に活躍する若い世代の知識人の体験を通して語っていただきます。〈青年〉の過去と現在を語り合うことによって、われわれの直面する〈青年〉の問題の核心に光を投げかけ、さらにまた、フランスの知識人と交流を通じて、ここ名古屋で対話と共感の場が生み出されることを願っています。

昭和59年10月

河合文化教育研究所
代表 河合斌人

〔特別講演〕—ディドロ没後200年を記念して

日時・11月25日(日) 10:00AM~11:30AM

会場・河合塾千種校(SDPホール)

演題「ディドロの今日性」

中川久定氏(京都大学教授)

ジャック・プルースト氏(モンペリエ第3大学教授)

〔シンポジウム〕

日時・11月25日(日) 1:00PM~5:00PM

会場・愛知県産業貿易館国際会議場

PART I テーマ〈青年の過去・現在〉

〔基調報告〕

「18世紀フランスの青年たち」

ルネ・ポモー氏(国際18世紀学会会長)

「18世紀フランスの教育」

ジャン・エラール氏(リオム市長・フランス18世紀学会会長)

「大学教師からみた現代フランスの青年」

ジャック・シュイエ氏(パリ第3大学教授)

〔ディスカッション〕

ドニーズ・ブライミ女史(パリ第7大学助教授)

アヌ=マリ・シュイエ女史(国立フランス語研究所教授)

ロラン・デスネ氏(フランス18世紀学会副幹事長)

エディア・カダール女史(チュニス大学教授)

PART II テーマ〈青年の自己形成〉

〔基調報告〕

ジャン・ルノー氏(ポワチエ高等学校教授)

エリック・ヴァルテール氏(アミヤン大学助教授)

〔ディスカッション〕

ピエール・ドゥヴォー氏(京都大学外人教師)

ベアトリス・ディディエ女史(パリ第8大学教授)

イヴ・フロレンヌ氏(ジャーナリスト)

アニー・プチ女史(フランス大使館文化副参事官)

※「特別講演」では逐次通訳を、又「シンポジウム」では同時通訳を行ないます。入場無料。

イヴ・フロレンヌ(Yves FLORENNE)

作家・劇作家・ジャーナリスト(『ル・モンド』寄稿家)。著書は『地の血潮』(戯曲)、『アンチゴネ』(戯曲)、ディドロ『ソフィー・ヴォランあての手紙』(編集)。

エディア・カダール(Hédia KHADAR)

チュニス大学教授。著書は『ディドロにおける国家の觀念』(執筆中)。

アニー・プチ(Annie PETIT)

フランス大使館文化副参事官。元京都大学外人教師。フランス文学、古典ギリシア文学、日本文学専攻。

ルネ・ポモー(René POMEAU)

パリ第4大学教授。フランス文学史協会会長。国際18世紀学会会長。著書は『ヴォルテールの宗教』『啓蒙の時代のヨーロッパ』『ディドロ』。

ジャン・ルノー(Jean RENAUD)

ポワチエ高等学校教授。著書は『ディドロと愛のことば』『ディドロの「サロン」について』。

エリック・ヴァルテール(Eric WALTER)

アミヤン大学助教授。著書は『ディドロの「運命論者ジャック』。

〈その他の参加者〉

ジョルジュ・ベンレカッサ(Georges BENREKASSA)

パリ第7大学助教授。著者は『18世紀の求心と偏心』『政治的回想録』。

ジャンニクロー・ボネ(Jean-Claude BONNET)

国立科学研究所助教授。著書は『ディドロ—テクストと討論』。

ジャック・ダロル(Jacques DAROLLES)

ディドロ没後200年記念諸事業統合委員会委員長、ランス文化会館会長。ディドロの『百科全書』の現代的意義を明らかにする展覧会をフランスのみならず世界各国で開催している。

市川慎一(いちかわ しんいち)

早稲田大学文学部教授。訳書はジャック・プルースト『百科全書』(共訳)。著書は『フランス文学史ノート』(共著)、『ディドロとエカテリーナ2世』。

鷲見洋一(すみ よういち)

慶應義塾大学文学部助教授。著書は『Le Neveu de Rameau, フランス文学史』(共著)、『ソフィー・ヴォラン書翰を読む』。

坂原茂(さかはら しげる)

京都大学文学部助手。著書は『L'interaction de l'inférence avec la présentation de la condition, 『日常言語と論理的推論』』(印刷中)。

シンポジウム 青年の現在 <パリ—名古屋>

主催：河合文化教育研究所
後援：フランス大使館

現代社会の急激な変化によって生じた世界観・価値観の多様化は、われわれの生活のあらゆる場面において、伝統的な考え方や感性の問い合わせを迫っています。伝統的な世界観と今日的な世界観との相剋が集約的に表現されている〈青年〉の問題をどのように捉え、いかに対応していくかは今日の社会を理解し、るべき未来社会を構想するための大きな鍵となるものです。

前近代社会では、日本の〈元服〉にみられるように成長の過程に一旦節目を入れることによって、子どもから大人への移行にひとつの区切りをつけてきました。しかし、この節目を失った今日の〈青年〉をめぐる問題は、現代の産業社会に特有の矛盾と歪みをかかえこむことになりました。

このたび河合文化教育研究所では、設立記念行事として11月19～23日に京都において開催される国際シンポジウム「ディドロ、および18世紀のヨーロッパと日本」を後援いたしますが、これを機会に国際シンポジウムに出席される第一級の

フランス人学者多数を名古屋に迎え、特別講演とシンポジウムを開催いたします。

特別講演では、近代社会の母胎である18世紀文明の全貌をディドロを中心に描き出し、さらにシンポジウムでは、18世紀フランスにおける青年像と教育の実態の解明を試みます。同時に、1960年代後半におけるパリ5月革命に端を発した世界的規模での学生反乱に始まる今日的〈青年〉の問題を、現代フランス社会に活躍する若い世代の知識人の体験を通して語っていただきます。〈青年〉の過去と現在を語り合うことによって、われわれの直面する〈青年〉の問題の核心に光を投げかけ、さらにまた、フランスの知識人と交流を通じて、ここ名古屋で対話と共感の場が生まれることを願っています。

昭和59年11月

河合文化教育研究所
代表 河合斌人

〔特別講演〕—ディドロ没後200年を記念して

日時・11月25日(日) 10:00AM～11:30AM
会場・河合塾千種校(SDPホール)

演題「ディドロの今日性」

中川久定氏(京都大学教授)
ジャック・プルースト氏(モンペリエ第3大学教授)

〔シンポジウム〕 日時・11月25日(日) 1:00PM～5:00PM 会場・愛知県産業貿易館国際会議場

PART I テーマ〈青年の過去・現在〉

〔基調報告〕

「18世紀フランスの青年たち」
ルネ・ポモー氏(国際18世紀学会会長)
「18世紀フランスの教育」
ジャン・エラール氏(リオム市長・フランス18世紀学会会長)
「大学教師からみた現代フランスの青年」
ジャック・シェイエ氏(パリ第3大学教授)

〔ディスカッション〕

ドニーズ・ブライミ女史(パリ第7大学助教授)
アヌ=マリ・シェイエ女史(国立フランス語研究所教授)
ロラン・デスネ氏(フランス18世紀学会副幹事長)
エディア・カダール女史(チュニス大学教授)

PART II テーマ〈青年の自己形成〉

〔基調報告〕

ジャン・ルノー氏(ポワチエ高等学校教授)
エリック・ヴァルテール氏(アミヤン大学助教授)

〔ディスカッション〕

ビエール・ドゥヴォー氏(京都大学外人教師)
ベアトリス・ディディエ女史(パリ第8大学教授)
イヴ・フロレンヌ氏(ジャーナリスト)
アニー・プチ女史(フランス大使館文化副参事官)

※「特別講演」では逐次通訳を、又「シンポジウム」では同時通訳を行ないます。入場無料。